

【第1四半期】
 < 富士通グループ 連結 >

(2) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 2004年度 第1四半期 (2004年4月1日～ 2004年6月30日) | 2003年度 第1四半期 (2003年4月1日～ 2003年6月30日) | 前年同期比 |
|-------------------------|--|--|-----------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 税金等調整前当期純利益 | ▲ 15,803 | ▲ 32,853 | 17,050 |
| 減価償却費及び連結調整勘定償却額 | 53,113 | 72,776 | ▲ 19,663 |
| 引当金の繰入額(▲ 取崩額) | ▲ 189 | 1,802 | ▲ 1,991 |
| 持分法による投資損失(▲ 利益) | ▲ 2,559 | ▲ 1,860 | ▲ 699 |
| 固定資産廃却 | 1,859 | 2,417 | ▲ 558 |
| 売掛債権の減少(▲ 増加) | 164,241 | 149,470 | 14,771 |
| 棚卸資産の減少(▲ 増加) | ▲ 59,236 | ▲ 80,902 | 21,666 |
| 買掛債務の増加(▲ 減少) | ▲ 135,112 | ▲ 112,429 | ▲ 22,683 |
| その他 | ▲ 59,961 | ▲ 84,323 | 24,362 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 53,647 | ▲ 85,902 | 32,255 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得 | ▲ 32,501 | ▲ 39,109 | 6,608 |
| 投資有価証券の取得及び売却 | 1,097 | 53,143 | ▲ 52,046 |
| その他 | ▲ 3,713 | ▲ 8,468 | 4,755 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 35,117 | 5,566 | ▲ 40,683 |
| + (フリー・キャッシュ・フロー) | ▲ 88,764 | ▲ 80,336 | ▲ 8,428 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 社債及び借入金の増加(▲ 減少) | ▲ 48,955 | 79,832 | ▲ 128,787 |
| 配当金の支払額 | ▲ 6,000 | - | ▲ 6,000 |
| その他 | ▲ 12,051 | ▲ 10,113 | ▲ 1,938 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲ 67,006 | 69,719 | ▲ 136,725 |
| 現金及び現金同等物にかかる換算差額 | 492 | 907 | ▲ 415 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | ▲ 155,278 | ▲ 9,710 | ▲ 145,568 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 413,826 | 282,333 | 131,493 |
| 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額 | ▲ 11,987 | - | ▲ 11,987 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 246,561 | 272,623 | ▲ 26,062 |

【資産、負債、資本の状況】

| | 2004年度 第1四半期 | 前年度末比 |
|--------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 総資産 (現預金及び有価証券) | 36,075 億円 (2,498 億円) | ▲ 2,580 億円 (▲ 1,670 億円) |
| 有利子負債 | 12,308 億円 | ▲ 462 億円 |
| 株主資本 | 8,152 億円 | ▲ 119 億円 |
| D / E レシオ | 1.51 倍 | ▲ 0.03 倍 |

当第1四半期末の総資産の残高は3兆6,075億円と前年度末に比べて2,580億円減少、資産の効率化をさらに進めました。当期においては、化合物半導体事業を住友電気工業㈱と合弁事業化し持分法適用会社としました。

流動資産の残高は1兆7,309億円となり、前年度末に比べて2,846億円減少しました。第2四半期以降の売上に対応するため棚卸資産が増加した一方で、年度末に集中した売上に係る売掛債権が回収により減少したこと、手元資金を取崩して社債の償還や買掛債務・営業費用の支払に充当したことなどによります。

固定資産の残高は1兆8,766億円となり、前年度末に比べて265億円増加しました。有形固定資産は減少しましたが、保有有価証券の時価の上昇などにより、投資その他の資産が増加しました。

負債の残高は2兆6,106億円となり、前年度末に比べて2,372億円減少しました。買掛債務の支払、社債の償還などによるものです。有利子負債残高は1兆2,308億円となり、前年度末に比べて462億円減少し、D / E レシオも1.51倍と、目標の1.0倍に向け引続き比率が改善しました。一方、現預金控除後のネット有利子負債については、社債償還を上回る運転資金の増加により、1,210億円増加しました。

株主資本の残高は8,152億円となりました。当期純損失の計上により、前年度末に比べて119億円減少しました。しかしながら、総資産の圧縮の比率の方が大きく、株主資本比率は前年度末に比べ1.2%改善し、22.6%となりました。

【キャッシュ・フローの状況】

| | 2004年度 第1四半期 | 前年同期比 |
|---------------|--------------|----------|
| 営業キャッシュ・フロー | ▲ 536 億円 | 322 億円 |
| 投資キャッシュ・フロー | ▲ 351 億円 | ▲ 406 億円 |
| フリー・キャッシュ・フロー | ▲ 887 億円 | ▲ 84 億円 |

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは536億円のマイナスです。前年度末に計上された売掛債権の回収によりキャッシュ・フローは改善しましたが、第2四半期以降の売上に対応するため棚卸資産が増加しました。前年同期比では、本業の損益の改善及び棚卸資産などの運転資本の効率化も進み322億円の改善となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは主に設備投資であり、351億円です。前年度はファナック株式の売却など投資有価証券の売却収入があったため、前年同期比では406億円の支出増です。

営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは887億円のマイナスとなり、前年同期よりも84億円の支出増となりました。投資有価証券売却の影響を除くと前年同期比530億円の改善です。

また、手元資金を取崩して、社債の償還や配当金の支払に充当したため、財務活動によるキャッシュ・フローは670億円のマイナスになりました。

この結果、現金及び現金同等物の期末残高は前年度末に比べて1,672億円減少し、2,465億円となりました。